

## 「子どもの権利条約フォーラム 2019」参加 報告書

開催日：令和元年 11 月 16 日 12:30～16:00

17 日 9:30～16:30

場所：文京学院大学（東京都文京区向丘 1 丁目 19-1）

目的：子どもの権利条約が国連で採択されて 30 年、日本が批准して 25 年となる。黒部市でも子どもたちの権利が守られるように権利条例制定を願い、全国の事例を学ぶため。

参加者：成川正幸、富山県からは「とやま子どもの権利条約ネット」の方々

報告者：成川正幸

スケジュール：

16 日

毎日メディアカフェ教育シンポジウム「子どもの権利を考える」

- トークセッション：ゲスト 春名風花（タレント・声優）・・・不参加
- リレートーク：子ども・若者から伝えたいこと
- パネルディスカッション：居場所、LGBT、教育に携わるおとなから（春名風花、松岡宗嗣、神本美恵子、西野博之）

17 日

**テーマ別分科会 A ■9:30-11:30**

A-1 「不登校の子どもたちの権利」の歴史と今(NPO 法人東京シューレ)

内容：2009 年に「不登校の子どもたちの権利宣言」を発表し、今年、不登校の子どもを取り巻く社会がどのように変化したのか、不登校の歴史とインタビューをまとめて作製した映画上映とミニシンポジウム。

**ランチセミナー■11:45-12:45**

L-2 多様な学びとフリースクール(NPO 法人東京シューレ理事長・奥地圭子)

内容：フリースクール東京シューレの代表・奥地より、不登校・フリースクール等多様な学び場の歴史的背景や理念、実践などを紹介。

**テーマ別分科会 B ■13:00-15:00**

B-9 子どもの遊びと大人の役割～プレイワーク基礎編 (Tokyo Play) /対象：おとな

内容：遊びに大人が関わる機会が増えた現代社会で、あるべき関わりや環境づくりのために生まれた専門分野「プレイワーク」。その基礎的な考え方や実践をワーク形式で学ぶ。

**全体会■15:15-16:30**

- フォーラム 2 日間を子ども・ユース・おとなの参加者全員で共有し振り返り

●来年のフォーラム開催地からのメッセージ  
とやま子どもの権利条約ネットの子どもたち

リレートーク：子ども・若者から伝えたいこと

1. 子供たちのトークセッション

○子ども1

子供の権利といえば世界の過酷な児童労働を思い出すが、日本はどうか。自分たちの体験や感じたことをシェアする。学校と学校以外の場に権利条約がどれだけ浸透しているのか。

○子ども2

小学六年生の時に授業で取り上げてもらったが、その時の権利は「働いてはいけない」「売買してはいけない」。私たちに関係あることではなく実感がわかなかった。「8条 生きる」「13条 参加する権利」は大切だと思っている。

しかし、授業を批判するわけではないのだが、関係あること、自分事として権利を考えたい。

○子ども3

子どもが生きていて良かったと思える社会にしたい。そのためには、安心でなければいけないが、今の学校は子どもにとって安心できない。だから、学校の環境を早く変えていかなければいけない。具体的には、「学校と外の世界とつながり、面白い環境にすること」「色々な人、いろんな場所があることを知ること」

ワクワクする気持ちが大切。

大事なことが学びの主人公は子ども。たくさんの失敗しながら学んでいくことや生きる力をつけること。そして子供たちが話し合う機会を持つこと。子供のチカラで世界を変えられるのではないか学校を地域にオープンで、ごちゃ混ぜな空間になれば、みんな違ってみんな良いという考えになるのではないか。一人一人が尊重される多様な学びが大切。

子どもに読んでもらいたい本を紹介

① 「きのくに子どもの村の教育」ほりしんいちろう著

好きな言葉は、「自由なこどもはよく笑いよく考え共に生きることをたのしむ」

② 「逃げろ生きろ生き延びろ」たかのてるこさん著

子供がありのままの自分を大事にして希望を持って生きれる世界にしていきたい。

○子ども（ブラック校則）

子どもたちの生活の大部分を占めているのが学校。高校は義務教育ではないのに校則が厳しい。例えば、「診断書が無いとリュックを使えない」など、心だ

けではなく身体まで縛るのは学びの場ではよくないのではないか。一番身近な学校で守られていない。そういうところを変えていきたい。校則がおかしいと考えられない雰囲気を変えたいと思っている子どもの敵になっている。

ブラック校則問題は自己決定権、意見表明権が疎外されてしまっている。茶髪の子を黒髪にするということは、個性を踏みにじっている。権利の前に人権がある。

高校は受験をする際に制服なのか制服じゃないかが分かるのに、強制されているというのはどうか。

生徒会が機能していれば直接先生と話し合えるが日本では少ない。だから、生徒会を機能させる事。生徒手帳に載っていないのに校則だからというのはおかしい。先生も校則を分かっている。入学時も校則を説明が足りていないと思うので各学校 HP 上に掲載義務化すればいい。

### ○子ども（不登校）

小学校三年生時に不登校になった。当時、体罰は、当たり前前に学校などで行われていた。

しかし、体罰をやったところで子どもたちは意見を言いにくくなってしまっただけ。そして、先生と子どもたちの距離が遠くなり、コミュニケーションが取れなくなる。だから、しっかり言葉を使うことが大事。

### ○子ども（LGBT）

学校の図書室が大好きだった。図書室の裏に秘書室は、生徒出入り禁止だったが、中に入れてくれて安心できる場所だった。

学校が性で安心できる場所であってほしい。苗字が佐藤さん、鈴木さん、高橋さん、田中さん、今言った苗字は日本に多いが、13人に1人とされるLGBTのほうが多いと言われている。

エックスジェンダーは性自認が男でも女でもなく、クリアとも言われている。差別や理解不足解消には、教育がカギとなると思っている。「おかま」、「おねえ」男らしくしなさいと担任が怒った。

2つ解決策として

#### ① 保険の授業で性の多様性を扱うこと

性の多様性について早い段階から認知することで差別やいじめを防ぐことができるだけでなく、今後の社会に出た際に自分が悩んだ時のヒントになる

#### ② 教員の対応

家族にカミングアウトすることは大変な事

学校で一人でも安心して相談できるような仕組みづくりがあるといい

多様性が認められる学校づくりこそがカラフルな世界を作るカギになると考える

### ○子ども（帰国子女）

海外からの帰国子女。先生は、日本語の授業についていけない時に放課後授業をしてくれた。

### ○子ども（痴漢）

中学2年生の時に痴漢をされた経験がある。

制服の着用を義務付けている理由として先生は、「周りの大人たちが中高生だと認識して、困っているときには助けたり、危険な状態な時に守ってあげるため」と言っていたが、それなのに痴漢にあった。

痴漢をされたと駅人に伝えたが、犯人に捕まえてくれないと何もできないと言われ、警察を呼んだ。警察の「本当に痴漢だったのか」との言葉にびっくりした。駅構内の掲示板に「痴漢は犯罪です」と書いてあるポスターを見て「社会に守られている」と感じていたが、実際は何もしてもらえない。

学校で友達と一緒に弁当食べていた時に、自分らしく生きられていないと感じた。将来何したいのか分からない。

どんな時でも家族だけは味方だよ

自分らしく生きていられるんだと実感している

○

新聞のスクラップが趣味で、最近気になった記事は、

東京都の児童相談所の一時保護所に対して第三者委員会が、人権侵害だと指摘したこと。

傷ついた子どもが安心して生活ができる事が重要だと思うが、実際は自由に友達との連絡や笑ったり会話することも規制されていた。暮らす場所としてはおかしい。一時保護所を経験した子供の声として、「家がきつくて来たはずなのにきつすぎる」、「安全だけど安心ではない刑務所みたい、自由が何も無い」

守るために理由に関わらず児童虐待に興味がある。

### ○子ども（虐待）

虐待を受けていた。思い出そうとすると、すぐ泣き出してしまったりしていた。母も私も暴力を受けていた。今年の8月に別居するまで些細な事でも父親からの暴力を経験。5月に警察沙汰になり、教会に一回だけ保護された。次に会った時にまた殴られるんじゃないかと思ってしまう。行政が強制的に保護しないと辛い思いをしている子どもは助からないかもしれない。

学校に警備員がいる時間だったので、インターホンを鳴らして、仲介してくれ、要務室に入れてくれて警察を呼んだ。

理解ある大人ってどこにでもいる。自分からアクションを起こすのは難しいが、虐待されている子どもからアプローチできたらいいと思う。例えば、子ども食堂だったり、フルースクール等、親の手から絶対に届かない場があればいい

い。

すぐに気づいてくれる大人が居ればいい。公民連携で色々な団体が子どもと横のつながりを持つ事が大事。

### ○子ども（母子手帳）

子どもの権利条例を母子手帳に乗せる運動をしている。母子手帳は、子どものが大きくなるまで、持っている。それを読んだ親は暴力を振るわなくなるのではないかと期待する。子どもは学校で権利を学ぶが、大人は学ぶ場がない。

昨年 8 月、世田谷区長に直接お願いに行って区議会で可決された。今年度から母子手帳に子どもの権利条約が載っている。

今後は母子手帳が世界に広まると同時に、母子手帳に子どもの権利が載っているのが当たり前になる社会になる事を願っている。

○体罰ガイドラインが書いてある人権教育プログラムが配布されている。そこには、虐待を早く発見しなければいけないと書いてあるが出来ていない。どうすれば良いのか。

## 2. パネルディスカッション：居場所、LGBT、教育に携わるおとなから（春名風花、松岡宗嗣、神本美恵子、西野博之）

### ○フェア代表 松岡さん

セクシャルマイノリティでゲイである。LGBT 情報発信をしている。

教育 LGBT の 6 割はいじめられた経験がある。

三重県では高校 2 年生 1 万人を対象に調査、LGBT10% 5%がエックスジェンダーメディアでの情報発信、WEB サイト記事、イベントキャンペーンなど。

台湾で同性婚が法制化された。

トランスジェンダーは、まだまだ面白おかしく報道されている。

東京都は差別禁止昨年 10 月から「人権尊重条例」

### ○元参議院 神本さん

日本教職員組合役員 10 年間。その前は小学校の教員だった。「女性差別撤廃条約」「子どもの権利条約」「障害者権利条約」。日本がどれだけ遅れているのか強く感じている

○子どもの権利を母子手帳に記載した。自分が変えたいと思ったことを行動に移すことが大事。この国で具現化し、政治を変えていかなければいけないと思っている

### ○西野さん

不登校の子供たちの居場所づくりを作りたくて 28 年前にフリースペースたまり場を作った。川崎市で権利条例づくりに関り、条例の具現化をするために子供たちが安心して失敗できる場所として「子どもの夢パーク」を作り、指定管

理者として働いている。

不登校は、本人の自己責任のような風潮になっているが、一つ一つ問題を社会の問題として捉え、公が出来ることを民間が協力。川崎市を動かして、市と一緒に行政課題を解決する公民連携で行っている。児童相談所に派遣して学習塾や川崎若者就労支援センターでは、29歳までの就労支援をしている。

28年間やってきてどうか。

不登校施策としては、教育機会確保法が作られて 学校に来れない子は問題ではなく、学校以外での学びに光をあてる動きは出てきた。一方で、本当に変わったのか。

学校復帰という言葉が、文言が取られたが現場サイドでは、下りてこない。あなたが変われば学校に来れるでしょは、乱暴な議論。みんなが出来ることをあなたが出来ない。

子どもの実態に即して授業をしたいと思ったら、校長、教育委員会とぶつかる。学校以外のところで学べる場所を行政的に支援する。いじめをなくすため関係性を変えていくこと。

### ○いじめ

「いじめをなくす」を第3者ができることは、

①クラスを無くすこと。固まった関係性を作らない。演劇や討論をする。1年A組の仲間となると何かしなければいけないとってしまうので、なるべく固定された人間関係を作らないようにしてほしい。子どもたちに広い世界があることを知ってほしい。いじめや虐待によって、心を傷つけられた子どもは自分が悪いと自尊心が低くなっている。気づかせてあげることが大人の責任。学校が楽しければ居場所はいらぬ。

### ○LGBT

ジェンダー教育を前提として学習指導要領に入れる事が大事。一般的に理解されていない。理解されていないから載せないといけないんじゃないか。ジェンダーバイアスが隠れているのではないか。LGBTは見えていない。一人でもいる。いないことにされているってことが問題。LGBTは良いと思っている人も当事者からも見えない。アライアンス⇒アライ  
恥ずかしいのが芽生える前に教育をしてほしい。

「お母さんは女らしくしなさい」といい、「先生は自分らしくしなさい」という。

### ○ブラック校則

遅れている校則も先生に見直す時間がなく、生徒も入学したときに既にあるので、普通だと思ってしまう。自分の頭で考えられる人間になること。その為には、生徒たちが実現可能そうな案を持ってきたときに聞いてあげてほしい。なぜ駄目なのか。分かりずらかったのか。改めて校則は何のためにあるのかを

考えてほしい。明文化の動きは大事。

○主権者教育をどう進めていくのか。子どもの声を聴くことがベース。子ども市民と大人市民が対等な立場。

○待っているだけでは困っていることが解決しない。

みんな仲間を作ること。

選挙がネットで出来れば楽なのだという意見があるが、SNS 広告に政党の広告があり、投票に左右された。簡単にした先に待っているのは、お金で思考が制限されること。弟が嫌いな人間は、「選挙に行かない人間と借金をする人間」先にしなければいけないのは投票か安全か

○子どもたちの意見

「子どもが生きていてよかったと思える社会にしたい」「世界中の子ども会が輝ける社会にしたい」「一人ひとりの自分の中で革命を起こせばきっと社会が変わるはず」「今の社会に大きな疑問を持っていると、それが少しでも良くなる」

「インターセクショナルリティ」の考え方が好き

「フェア」社会を良くするときに「正しさ」が大事。どういう風にしたら公平な社会になるのか？

「大人が幸せでいてください」

ここにいない人の事を考えられる社会に、助けてを言える社会をどうやって作るのか。自立は、依存できるチカラが自立。

SDGs が目指す社会、家族の枠にとらわれない社会、街が豊かに育ちあえる場、生まれてくれてありがとうと言ってあげられる社会になるようにしたい。

17日

プレイワークを学ぼう

プレイワークは1980年代にイギリスで整備されたもの。子どもの時に大人がいる場所で遊んだ記憶があるのか？子どもが子どもだけで遊ぶ。教育の歴史は何百年あるが、それは必要があったから。大人の監督下で子どもが遊ばなければいけない環境が増えてきている。子どもが自由に遊ぶことが大事ということからプレイワークが出来た。移動型の活動で、例えば病院では、子どもでも余命が分かっている、最後の一日まで楽しかったといってもらえるようにする。他にも避難所、難民キャンプ、刑務所など。

ワークショップ：ペアになった方の顔を良く見て、似顔絵を描く。ハードルが高いので、紙を頭の上に置いて顔を描くように書き方を変える。福笑いしているみたい。

子どもが一番自由に表現するときは楽になっているとき。大人になってからどうやったら豊かな時間が過ごせるのか。「安心はチカラ」

自分は人より下手、間違っているのではないかと考えたら、自分のチカラが出

し切れなくなる。

「人って何で遊ぶのだろうか。」

今、何があるのか分からなかったり、自分がどういう環境で生きているのか分からなかったりすると、失敗を恐れて、挑戦しなくなる。そもそもやろうと思わない人が増えている。何でもグーグルでやり方が出ている。

子どもは、安心を得るために遊ぶ。

自分の動機に基づいて、やりたい事をやりたい方法で、結果が分かって分分からなくても面白いと思うことをやる。

誰かと比較する事を大人がとらわれていると子どもに移り、行動が変わる。子どもは意外と大人がどう思っているのか気にしている。

土木関係は99%市民からの苦情で、住民の声を反映することが仕事。良いことの電話は一本もない。禁止看板があちこちにある。重要事項だからか。子どもたちが意見だけではなく、大人も意見を言わないと守れない。コミュニケーション不全が禁止看板になっている。

放課後児童クラブ職員は、非常勤で低賃金、ろくな研修を受けさせてもらえない。

「じゃ、やめておきましょうか」で禁止が出来る。何も出来なくなっている。後から来た人は何で禁止なのか分からなくなっている。職員研修必要。

こどもが多少のけがはする。子どものボール遊び禁止にしているのが東京58.8%。これを変えようとする政治力が必要。

子供一人当たりの大人の数は、100年前は1.33人、70年前は2.46人、2012年は5.26人、2060年は9.96人。

子どもは自由で良いのではいかという大人は何人か？何人にしたいのか？40年後に8.99人に良いよと言わせたい。そういった事を他の人にも一緒に考えてほしい。

「遊びのレンズ」というものがある。同じ子どもでも医学から、教育から、生活からなど、角度、見方を変えると見え方が変わり、接し方が変わる。

付け替えるか 厚みが変わる

どっち側に立っているのか？この子はどうしたかったのかを知ることが大事で、大人の都合ではない。気持ちはわかるが先ず共感すること。

子どもはいろんな刺激をもらって、一日中遊ぶ。人は自分の感覚の神経が喜ぶようになっている。足りない刺激は自分から取りに行っている。いらなくなると自然に取りにいかなくなる。

ラーニングストーリーという子ども自身が持っている学ぶ力と可能性への信頼を基盤として保育者や保護者が、子ども一人ひとりの興味・関心や気持ちなどに目を向けて「子どもが肯定的にみえるようになるための視点」を培っていく



方法。

子どもによって同じもので遊んでいても、やりたいことは違い、色んな遊び方がある。

例えば「水たまり」は、どんな遊び方がある？飛び込む。手でバシャバシャ、飛び越える、寝転ぶ、絵を描く、石を投げる、埋めていく。どうやって遊びたかったのかを見ること。

プレイワークは、先に子どもがどうしたいのかがある。遊びとスポーツの違いは、スポーツは勝ちにいかなければいけないが遊びはない。隙だらけにすると、子どもはちょっかいを出してくる。子どもが何をやりたいのかを見る事が重要なので、待って見られる人がいたほうが良い。

遊びのキュー（合図）

キューの出し合いが出来ると遊びの関係が成り立つ。キューを出す側が取りづらくすると遊びは成立しない。人によって合図が違う。その子がどうしたいのか。距離感が見えてくる。

例えば、「ままごと」に入る時の合図は？「入れて」「視界に入りアピール」「物を取って、怒らせる」「わざとぐちゃぐちゃに邪魔する」

このキューが分からないと、入れない。キューに気づく事。

子どもはあなたにどんなキューを出すのか？

みなさんは子どもたちにどんなキューを出すのか？

昔はいくらでも勝手に失敗できたが、今は一度も失敗もなく体験というパッケージ化したもの、商品、ビジネスモデルがあり、失敗させてもらえない時代になってきた。

習い事・・・大人が決めたもの

遊び・・・子どもが決めたもの

出来るか分からないけど、プロセスが楽しい。感性を持った子供たちが育つといい。世の中は、一回も失敗しないで経験させてくれる大人ばかり。自分のされたことを今の子どもたちにしても、いらぬといわれる。大人の役割として、かかわっても関わらなくてもどちらでもいいが、遊びかかわり中で、結果が出ないかもしれない思い出の場所を作ってあげること。子どもは思い出の場所に戻ってくる。自分たちから関係を切るようなことをしないようにしよう。

子どもとかかわる技術の技と術を分ける。技はスキル、術はアート。

今まで見た映画の楽しかったこと、悲しかったことは人によって違う。

価値観や歴史を大事にして、あなただから気づくことがある。

螺旋階段は、上から見ると同じところをぐるぐる回っているだけ、横から見ると上がってる。見方を変えると違うものが見えてくる。

## 所感

子どもを取り巻く環境は、私たちが子どもの頃と全然違う。失敗しない社会は本当にいいのかをあらためて考えさせられた時間でした。遊びを通して考えて行動することを学び、大人になっても指示待ちではない自主的に動く子どもが多くなることを願いたい。

今より、大人が子どもより多くなる社会がどんな社会になるのか、今から私たち大人が真剣に考えていかなければいけないのではと思いました。

## 写真



リレートーク



パネルディスカッション



ランチセミナー



全体会



全体会



来年のフォーラム開催地からの  
メッセージ